

第15回病診連携委員会要録

日時 平成22年9月27日（月）午後7時30分
場所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会 : 7名
愛染橋病院 : 2名
大野記念病院 : 2名
四天王寺病院 : 1名
多根総合病院 : 2名
富永病院 : 1名
浪速生野病院 : 1名

議題

1. 第14回病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

2. 病診連携委員会のアンケート結果について

結果は次のとおり

質問1 ブルーカードの登録症例、利用症例の分析をするのに必要なデータについて

受け入れ病院とそれまでに経由した病院、病院への来院方法、ブルーカード利用の時間帯、利用患者の居住地域、病院への連絡者、転帰、疾患分類、脳心疾患既往歴の有無、アルコール嗜好度などのデータが分析に必要なかとの意見があり、これらを考慮して実働状況をまとめるようにしていくこととなった。

質問2 浪速区以外の地区で地域連携に興味のある先生方を対象にブルーカードの説明会をすることの是非について

賛成として以下の意見があった。

- ・慌てずに府医学会総会の後にゆっくり検討してはどうか。
- ・西成区居住の患者が多数いるので西成区内にも紹介病院ができるようブルーカードの拡大を希望する。
- ・個人単位の参加の方が現実的だが、所属医師会への周知は必要である。
- ・まだ浪速区近隣でないと参加できないのでしばらくはエリア制限が必要と考える。
- ・興味ある先生方へ周知することが長期的にエリア拡大へつながるのではないかと。

反対として以下の意見があった。

- ・浪速区以外の先生方に活動範囲を広げるなら医師会同士の協議がまず必要と考える。その地区の患者にはその地区内の病院の選択肢が必要となることから医師会単位での参加が理想的と考える。

徐々にエリアを広げていくのか、徐々に他の地区の医師会単位の参加を促していくのかを今後も継続して検討することとなった。

質問3 介護用ブルーカードについて

以下の意見があった。

- ・誰もが容易に参加できるように最低限必要な項目を選出して作ったブルーカードなので、項目の追加は不要である。
- ・介護情報は、入院当初に必要なものではないので、後日の提出でよいのではないか。
- ・介護事業所名、ケアマネの氏名、連絡先が分かればいつでも連絡できるので特に初めから必要なものではないと考える。

介護用ブルーカードは、入院当初あまり必要性がないので積極的な同封は不要となった。そして必要に応じて、介護事業所に情報提供を依頼することとなった。

質問4 その他の検討すべき事項

(1) 疾患別の病診連携について

今後の検討課題として個別の体制を作っていく予定である。

(2) 全ての病院がデータベースを閲覧できるようにして、積極的な運用を進めていくことについて

すべての病院が全データを閲覧できるようにするのは個人情報の問題があって困難である。

(3) データの入力業務を事務局である浪速区医師会が行うのではなく、登録病院が行えば他地区のデータを浪速区医師会が管理していることにならないのではないか。

地域医療はやはり医師会主導であるべきなので、病院中心にすることはできない。

3. ブルーカード使用時の状況報告書について

医師会（事務局）でブルーカードの稼働状況が把握できるように報告書の記入に協力して欲しいとの要請あり、報告書の原案が提示された。

報告書は、診療所より受け入れ病院で記入する方が早く仕上がることから、病院の連携室からの報告となった。ただ、もう少し内容の簡素化の希望があり、内容を変更し再提示することとなった。

6病院が最終受け入れ病院（ブルーカードを受け取った）なら、その病院が報告書を記入し、その他への搬送になったら、わかる範囲で最終的に関わった登録病院が記入することとなった。

4. ブルーカードの介護情報について

介護情報は、最終的に治癒すべき目標としての利用法くらいしかないと思われ、入院時の状態が悪いほど役立つ情報は少なくなる。

介護事業所との連携の意味もあるので、希望があれば、報告書を加えることとなった。

5. ブルーカードに記入する主病名について

ブルーカードの主病名は、決まった病名リストから選ぶようにしてもらった方が分析をする時に便利なので、今後は病名統一をしていきたい。

6. 富永病院の受入れに対する今後の対応について

ブルーカードの登録症例で、富永病院の案内書に掲載されている脳・心疾患を疑う症状のある場合は、富永病院へ直接連絡してもらっても受け入れができることとなった。

7. その他

(1) ブルーカードの利用数について<久保田委員長>

消防からの報告では救急搬送時間が年々長くなっており 20 分以上を要する場合がほとんどであることから、少しでも時間短縮につながるブルーカードの利用数をもっと増やしたいとの意向を強く訴えられた。そのためには症例数を増やすことが必要なのでブルーカードの適用基準のハードルをもう少し下げる議論をしたいと提案され今後の検討課題となった。

(2) 在宅患者緊急入院診療加算算定に係るお問い合わせについて<小城室長>

大野記念病院の小城室長より、在宅患者緊急入院診療加算に該当する場合は、適用条件に合致するかを確認するために紹介診療所へ問い合わせたいとの申し出があり、問い合わせのフォームが提示された。

異議なく了承された。